

2025年度(令和7年)第1回教育課程編成委員会 議事録

日 時 2025年9月2日(火)14:00-15:00

場 所 旭美容専門学校 本館会議室

出席委員	株式会社ふらいむ シニアマネージャー	伊藤元 委員
	有限会社ラボ・ビューティ取締役	佐々木昌美 委員
	Hair shop OZ オーナー	小林裕也 委員
	Nail&cosmeticTOBIOKA オーナーネイリスト	前田佳苗 委員(書面参加)
	旭美容専門学校 校長	溝口智紀
	旭美容専門学校 教務部長・美容科学科長	丹羽孝喜(司会)
	旭美容専門学校 トータルエステティック科科長	豊田そのみ
オブザーバー	株式会社ふらいむグループ代表	岩崎哲治 様
	ムコタ化粧品株式会社代表取締役社長	市川直樹 様
	株式会社コマツ商会代表取締役社長	服部和幸 様
	旭美容専門学校 理事長	長谷川雅敏
書記	旭美容専門学校 事務	駒倉美佳

議事次第

1. 開会

教務部長 丹羽孝喜から開会の挨拶がなされた。
配布資料を確認し、前田委員は書面参加である旨を伝えた。

2. 理事長挨拶

理事長 長谷川より、本委員会は教育課程の動向を把握し、授業内容の改善を目的として設置している。これまで委員の方からいただいた提案や企業連携を経て、本学の教育はより職業実践的な内容へ変化してきた。

美容科は専門実践教育課程、トータルエステティック科はキャリア形成促進プログラムとして認定されたことを紹介し、協力への感謝を述べた。今後も魅力ある学校づくりのため、忌憚のない意見を寄せてほしい。

3. 校長挨拶

校長 溝口より、「どの業界でも変化に対応し続けることが必要」と述べ、最新トレンドを積極的に教育に取り入れることが重要。業界と学生をつなぐ学校として、忌憚ないご意見をいただきたい。

4. 議事

一、美容科、トータルエステティック科の教育課程について

1) 前回教育編成委員会以降の取り組みについて

美容科の取り組みについて（丹羽）

1. 課外授業(万博参加)

1・2年合同で万博に参加。学年間の交流を深め、学生からは「視野が広がった」と好評。

2. 実践授業の拡大

現役で活躍する美容師を招き、特別授業を増設。最新技術を体感し、サロン現場とのギャップ解消を図った。学校での学びとサロンワークとのギャップをなくし、現場で求められる技術・感性・流行を授業に反映させることで、より実践的なスキル習得につなげている。

3. 海外研修視察(韓国)

来年度導入を検討中の海外研修に向け、韓国で視察を実施(資料①参照)。

最先端のK-ビューティーを体験し、プログラムへの反映を予定。

観光や食事、現地学校との交流も取り入れ、学びと体験の両面から充実した研修を計画している。

今回の視察結果をもとに、来年度の研修プログラムに反映させ、学生が国際的な視野を持って成長できる機会とする予定。

4. 接客マナー向上の取り組み

前回委員会で要望のあった接客マナーや言葉遣いの向上について、オープンキャンパス・サロン体験・インターンシップ等を通じ、接客スキル向上に取り組む。事前ミーティングを教職員、スタッフ全員で行うことにより、チームとしての活動力にも。また本校理念「ヒューマンビューティ」を実践する活動にもつながる。また、資料①にはCHAコンテストの学生作品の一部を掲載。学生の技術力向上を図っている。

トータルエステティック科の取り組みについて（豊田）

前回委員会において、接客業として求められるマナーやチーム力の向上が必要であるとのこと意見をいただいた。また、サロン現場で求められる「相手のニーズを汲み取り行動できる力」を重視。

主な取り組みとして

- ① サロン体験の拡充(三重・東京など)
- ② コンテスト参加(現状把握と課題設定)
- ③ バリ研修実施(資格取得+国際感覚の育成)
- ④ サロン見学ツアー(多様な就職先開拓)

自分で考えて行動できる人材の育成を目指す。

今後も企業やサロンの現場が求める方向性を把握し、教育内容に反映していきたいと考えている。

(美容科・トータルエステティック科の取り組みについてのご意見)

・書面参加:前田佳苗委員より

ネイル分野の業界動向と導入優先度について、書面参加の前田佳苗先生よりご意見をいただいた。

ネイル分野のカリキュラム導入は、第1優先:メンズネイル → 第2:フットケア → 発展:アピアランスケアネイル(詳細は資料③参照。)

・サロン教育の現状について➡ 近年、どこのサロンも教育方針が偏り、学生に対して過度に優しくなっていてしまっている傾向があり、「スタッフをうまく叱れない」「指導が難しい」と悩む声も多い。この傾向は美容業界に限らず、どの業界でも共通して見られる課題である。

社会で求められる力について➡ 社会に出てからは、自分で考えて動ける人材と、そうでない人材との差が明確になる。そのため、学校ではまず基礎をしっかり教えることが最重要であり、その基盤をキープしたうえで新しいことを学べるカリキュラムを整備すべきでは。

東京研修などの有効性について➡ 都会での経験を希望する学生に機会を提供することが重要であり、東京研修などを通じて進路の選択肢を広げることは非常に有効である。 (服部様)

・国家試験と現場のギャップについて➡ 美容専門学校目的はまず美容師国家試験の取得であるが、現場に出た際に「学校で学んだ内容と実際のサロン業務に差がある」と戸惑う社員もいるとの指摘があった。ただし、これは当然のことであり、現場で経験を積む中で自分で考えて動ける力を育てることが重要。

・社会に出てから出会う美容師の影響について➡ 社会に出た際に出会う美容師の存在が、将来のキャリア形成に大きな影響を与えるとの意見があった。例えば、夢を語り「美容師は人を綺麗にできる素晴らしい仕事だ」と話す先輩と、愚痴を言う先輩とでは、学生が描く将来像に大きな差が生まれるとのこと。

・将来像を描く教育の必要性➡ 学生が自分の将来像を具体的に描けるような教育が必要ではないかと提案。例として、複数のパターンを想定した「将来のロードマップ作成」を授業に取り入れることが考えられる。現実的な要素を踏まえながらも、将来を前向きに考えるきっかけとなる教育が望ましい。

教育の変化と基本の重視➡「昔の教育と現在の教育は大きく変わってきている」としつつ、教員自身も新しい教育を学ぶ必要性があると指摘。一方で、接客業としての基本は変わらないため、そこは引き続き重視して教育に取り組むべき。 (市木様)

エステ業界の現状とイメージについて➡ 現在、エステ業界では脱毛サロンの倒産やハイパーナイフ施術に関する事故などの影響で、世間的なイメージがあまり良くない状況にあるとの指摘があった。そのため、良いイメージを持ってもらうためにもスタッフ教育を徹底する必要。

スタッフ教育と価値観ワークの実施➡ スタッフとのコミュニケーションを深めるため、価値観ワークを実施。「尊敬する人物を3人挙げて話し合う」形式で行ったところ、若いスタッフもそれぞれしっかりとした考えを持っていることが分かり有意義だった。今後、チームづくりのためにもこうしたワークは有効。

AI 講座の開催予定➡ また、「エステティシャンが知りたい AI 講座」を今後開催予定である。

(佐々木委員)

・就職活動時の価値観の変化について➡ 近年の若い世代は、就職活動時の面接において、夢や希望よりも現実的な条件(勤務時間・残業・給与など)を重視する傾向が強いとの指摘があった。もちろん将来オーナーを目指す学生もいるが、全体としては「いかに楽に働けるか」に重点を置く傾向が見られる。

スタッフ教育と意識づけについて➡ 入社後はまず、「自分も綺麗に、そして楽しく」を意識させ、お客様に寄り添いながら綺麗にする楽しさを伝える教育を行っている。また、人柄の良さを認め、長所を伸ばす指導を重視し、その後は個々に目標を定め、意識的に成長を促す教育を実施。 (伊藤委員)

・世代間ギャップと目標設定について➡ 近年、熱く語ることが NG と捉えられる風潮があり、若い世代とのギャップを強く感じる。大きな目標よりも、小さな目標を複数設定した方が若い世代には受け入れられやすいため、3 か月ごとの面談や評価、売上目標の細分化など、短期的な目標管理を意識して取り組

んでいる。

教育方針とコミュニケーション➡「いいと思うこと」や「モチベーションの上げ方」において、世代間の価値観の差が大きいと感じるため、若いスタッフへの教育は同世代に任せる体制を取っている。また、コミュニケーション力はスキルであり、磨くことができるとの考えから、占いを活用し、当たる・当たらないではなく相手への関心を高めるツールとして使っている事例が紹介された。最後に、「時代が変わってきている」という現実を受け入れたうえで教育方法を考えることが大切である (岩崎様)

・専修学校協会の方が本校のオープンキャンパスを視察に来られた際、学生挨拶や参加者に対する態度が素晴らしかったと感想をいただいた。(長谷川理事長)

2) 今後の取り組みについての報告、ご意見・質疑・応答

・海外研修の実施について➡現状では店舗で働く若い世代のスタッフは海外に対して恐怖感を持つ傾向があり、国内希望が多いとの現状がある一方で、学生時代に海外で研修や体験を通して学ぶ機会は非常に貴重であり、広い世界を知ることは大きな財産になる。そのため、海外研修の実施は今後も有意義である。(小林委員)

コンテストに参加し、賞を獲得することで自信をつける学生が多い。(岩崎様)

メンズネイルやメンズエステについて又はサロンでのメンズスタッフの活躍について意見を求めたところ、メンズスタッフについては女性よりも女性らしいスタッフであるため、違和感を抱かずにサロンで活躍できている。また、メンズのお客様に関しては入り口を分ける、又はベテランスタッフによるご案内など、既存の女性のお客様にも理解いただける環境をとっている。(岩崎様)

二、その他

1) 次回会議の開催日について

次回会議の日程は、2026年3月10日(火)14:00~15:30に決定した。

場所:旭美容専門学校

2) 閉会挨拶

現場の貴重なご意見をありがとうございました。

本日頂いたご意見を、教育課程の編成に反映していきたいと思っております。

校長挨拶

お忙しいところ集まっておいただき、貴重なご意見をありがとうございました。

頂いたご意見を取り入れ、求められる人材を現場に送り出せるように進化していきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。